

週刊粧業 顧問 加藤英夫(週刊粧業 流通ジャーナル 前会長)

流通記者50年「経営トップとの交流の中で」

第21回「五島列島との深い絆」(サンドラッグ 才津達郎会長)

サンドラッグと長崎県五島列島とは深い絆で結ばれている。才津達郎会長は1966年、長崎県立五島高校を卒業して集団就職で上京し、新宿で薬局を経営する「アメリヤ商事」で働き始めた。そこで商売を「から学んだ。7年後に縁あって多田幸正氏(故人名譽会長)が1957年に創業した「サンドラッグ」に入社した。

3年後には取締役営業部長に抜擢され、本格的なドラッグストア経営者の道を歩み始める。1994年には専務から社長に昇格し、2013年に会長に就任するまで20年近く、トップとして同社を業界で抜きん出た存在にまで成長発展させる原動力となった。

才津さんはあまりマスコミが好きではない。シャイな性格だが、私は毎年夏、本部でインタビューさせてもらうことを恒例にしている。季節柄、ラフな服装で淡々と語ってもらったが、眼光是鋭かった。

「私は人間が出来ていませんので、なかなか新しい仲間が増えないんですよ」と冗談まじりに笑っていたが、2009年12月には、九州、中四国でディス地に新店していきます。

2013年、取締役管理本部長から社長に昇格した赤尾主哉(あかおきみ)氏も五島列島の出身で、社長就任早々のインタビューでも弁舌爽やかで驚いた。残念ながら肺がんのため2018年8月、52歳の若さで亡くなられた。

暫く才津さんが社長も兼務していたが、2019年4月、ダイレックスの社長だった貞方宏司氏がサンドラッグの社長に就任して、才津さんは会長に専任することになり現在に至っている。赤尾さんのお別れの会で、涙ながらの弔辞を述べたのが真方さんだった。彼も五島列島出身である。才津会長は1980年代から、ドラッグストア業界で最大級の物流ネットワークシステムと情報オンラインシステムを構築してきた。全国に張りめぐらされた在庫センターと經由センターに加え、本部、全店舗、物流センター、ベンダーを結ぶオンライン情報システムがサンドラッグのロケット経営を支えている。

「私の一番好きな仕事は教育です。次に商品開発、そして業態開発です。朝起きると『今日は何をやるのか』と考えます。毎日が楽しくて仕方ないですよ(次号は、ウォルグリーン ショーマー クリオ 経営戦略部長

新工場概要/所在地 山梨県南アルプス市宮沢181-1(サンスタールイジヤ) 敷地面積 約5000㎡ 延床面積 約7000㎡ 階数 地上2階建 生産能力 現高機工場比3倍 生産品目 洗口液など 投資規模 約50億円

「MyKirei by KAO」を米国で発売

花王 「Kirei Lifestyle」を象徴するブランドとして美しいシンプルを訴求



花王は、2020年4月より、米国の子会社である花王USAを通じて、「Kirei Lifestyle」(キレイライフスタイル)を体現するブランド「MyKirei by KAO」(マイキレイバイカオ)の3品目(6品種)の販売をAmazon(米国)にて開始した。まずは米国でビジネスをスタートし、花王の本質研究から生まれた技術により、環境負荷が少なく、誰にでも使いやすいユニークな商品を提案していく。

「MyKirei by KAO」は、「Kirei Lifestyle」を象徴するブランドとして、生活をもっと美しくすることをコンセプトに、環境や社会と調和して美しいシンプルな生活や、花王ならではの品質研究に基づいた環境・社会に配慮した商品群を提案していく。今後は、日本、欧州、その他アジアなどで順次展開を拡大する。

今回発売する3品(シャンプー、コンディショナー、ハンドウォッシュ)には、同社が開発したフィルム容器「Air Film Bottle」(エアインフィルムボトル)を初めて採用。フィルムは「フレックコパック」などつめかえ用容器に使われるやわらかい素材だが、容器の外側に空気を入れて膨らませることで、自立する容器として使用することができ、プラスチックの使用量をポンプ型ボトルに比べ約50%少なくすることができ、

さらに、つけかえ用を「MyKirei by KAO」では、テラ商品概要/Nourishing Shampoo 300ml、つけかえ用Nourishing Hand Wash 300ml、つけかえ用Nourishing Conditioner 300ml

山梨工場内で洗口液の新工場棟建設に着手 容器成型・充填・包装に対応した 一貫生産で生産能力が現状の3倍に

サンスタールでは、山梨県南アルプス市にあるサンスタール技研山梨工場の敷地内に、洗口液などを生産する新工場棟の建設に4月中旬から着手し、2021年度内の稼働を目指す。同グループでは、大阪府高槻市にハミカキや洗口液などを生産する高槻工場を持ち、その周辺に複数の営業・研究施設などを展開している。現在、これらの施設を集結し、製品開発を加速させる再開発プロジェクト「新みらい高槻プロジェクト」を進めている。

今回の新工場建設にあたり、国内拠点の再開発の需要地である関東圏に近しい山梨工場の敷地内に、洗口液を生産している大阪・高槻工場での生産数を見直しも行われ、洗口液建設することとした。を調整し、日本での洗口液の生産能力を最大で3倍に高め、国内外で市場が伸びている洗口液の事業拡大を目指す。



新工場は、少量・大容量までの多種のボトルに対応できる容器成型・充填・包装の一貫生産に対応し、自動倉庫や無人搬送車、ロボット設備などによる自動化を推進する。また、屋上への太陽光発電パネルを設置し、高効率空調などによる環境負荷低減に対応していくほか、新耐震建築強度基準値の1.25倍の耐震強度を確保する。